提出日: 2023 年 3 月 31 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	水上雅晴

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。 1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日 2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日 3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日 4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日 1
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。 コロナ禍の影響で資料調査や学術会議の参加など出張・対面を伴う活動がほとんどできなかったので、研究文献や史料の読解・考察と執筆に専念し、主として以下の 3 項目に関わる研究をおこなった。 ①清原宣賢『論語聴塵』(写本)の翻刻作業。 ②俗文学(洒落本・落書・川柳)や小学校の課業表に着目した、江戸末期から明治初期にかけての漢学受容状況の調査と考察。 ③引用・校勘・弁疑に着目した、日本の年号資料に見える漢学的要素および中国宋代における考証学の発展に対する研究。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。 研究促進期間内に、以下の単著論文 2 篇と共著書 1 点を発表した他、全国学会シンポジウムでの報告一件をおこなった。さらに 2023 年 6 月末に単著論文一篇が刊行されることも決定している。 ・水上雅晴「宋代の考證學に關する試論—清朝考證學との關係について—」(『日本中国学会報』第 74 号、日本中国学会、2022 年 10 月、47-61 頁、査読あり) ・水上雅晴「明治初期の初等公教育と漢学—課業表を手がかりにした考察—」(『国語論集』第 20 号、北海道教育大学釧路校国語科教育研究室、2023 年 3 月、1-15 頁、査読なし) ・高田宗平編、水上雅晴ほか著『日本漢籍受容史—日本文化の基層—』(八木書店、2022 年 11 月。水上雅晴「年号勘文と漢籍引文」が同書、235-258 頁に収載)
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。 短期的には、清原宣賢『論語聴塵』の影印・翻刻書全 3 冊の出版が当面の最大目標となる。出版社との打合せも済んでいる同書の刊行は、博士家の漢学の実態を研究するための基礎資料の一つを学界にもたらすことになると考えている。研究成果に挙げた論考はいずれも発展の可能性に富んだものであり、これらの研究を基盤として、「漢籍の受容に関する研究—引用と校勘に着目して」という今回のテーマにもとづく研究成果をさらに発表していくつもりである。海外からの対面式学術会議の招待がふたたび届くようになったので、コロナ禍以前のように外国語での論文執筆・報告をおこなって、海外の学界にも研究成果を積極的に発信していきたい。時間に余裕があることで、新たな研究テーマを見出し、また知識を蓄えることができたので、それらをもとに研究領域の拡張と充実につなげていきたい。